

平成25年度 「千葉県安全性向上プロジェクト委員会」
議事要旨

■ 開催日：平成26年3月4日（火） 14:00～15:30

■ 場所：千葉県庁会議室 南庁舎4階 第2会議室

■出席者

千葉工業大学 工学部 教授	赤羽 弘和（委員長）
千葉県警察本部 交通総務課	柘淵 賢二（代理出席）
千葉県警察本部 交通規制課	土屋 裕二（代理出席）
一般社団法人千葉県トラック協会 交通環境部長	岩井 亮
一般社団法人千葉県バス協会 専務理事	花崎 幸一
公益財団法人千葉県交通安全協会 事業管理課長	松野 勉
一般社団法人千葉県安全運転管理協会 事務局長	黒瀬 明
千葉県県土整備部道路環境課	町田 英之（代理出席）
千葉県環境生活部生活・交通安全課	刈込 昌利（代理出席）
千葉市建設局土木部	内山 恵市（代理出席）
国土交通省関東地方整備局 首都国道事務所	山田 明彦（代理出席）
国土交通省関東地方整備局 千葉国道事務所	西村 政洋

■議事

(1) 規約の改正

事務局より規約の変更について説明し、委員の変更について承認を得られた。

(2) 議事

1) これまでの取組み報告、2) 対策実施区間のフォローアップ結果報告

○一般道路で事故が集中しているのは、交差点である。道路構造の課題と一緒に、全赤時間等や信号現示も合わせて資料に示してほしい。今後は、道路構造と信号現示を組み合わせで検討した資料を作成してほしい。交通安全対策において信号現示を取り扱わないということは、テレビでいうと、画像があって音声がないものと同様である。

○東寺山交差点について、高品方面への右折事故は減少しているが、西千葉方面への右左折事故が依然として発生している。道路環境的なものではないと思うので、信号制御と一緒に検討してほしい。

○並木交差点については、交差点をコンパクト化することで、右折車は、停止線を通過後の距離が短くなるため、速度は低くなる。交差角を、浅い角度ではなく転回する形状に改良する方向が望ましい。そうすることで、右折車のスピードを抑える。交差点のコンパクト化で負の影響はないと考える。

○場所や状況によって、信号制御が変えられないこともあるが、幾何構造や信号現示を連動する対策が望ましい。対策は千差万別である。

○対策工種別の対策効果は、工種別の組み合わせである。本判定に、ポアソン検定を入れてもらった。統計的に増減を示したものである。これにより、統計的に減少が明らかであることがわかる。

3) 事故危険区間の更新結果の審議

○まずは、事故対策を行い、事故件数が削減すれば最も良い。

今回は事故危険区間の削除ルールを見直したが、今後、区間数が増え続けたら、再度見直してほしい。PDCA サイクルの一環としてより良い方法を見直しつつ事故危険箇所を減らしていけば良いと思う。

4) その他の交通安全の取り組み報告

○道路安全監査の試行を行った。各所属機関の所掌分野を取り払い、技術的観点から、要因分析と対策立案を行うべきである。最初は技術的な議論を行った後に、所掌権限を含めた話をすることに期待する。

大学も官も民間コンサルタントも参加できるような制度にして、しがらみを突破して、現場で正直に議論できる場を作れば良いと思う。今後、PDCA サイクルでやってほしい。千葉県で試行していくのは、とてもよいことである。

○新設道路にも導入するのは、良いことである。これまでの見識を活用し、既存道路と同様に対策をしていけばよい。

事故危険区間のリストに入ってくる区間を少なくするという点でいい考えである。